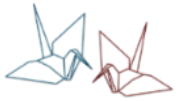


未来に向かって伸びる鶴嶺の子 鶴小だより 10月号

茅ヶ崎市立鶴嶺小学校
校長 日高 大司郎
令和4年9月30日発行



未来予想図

僕たちが、子どもを教育するのは何のためでしょうか。お父さんやお母さん、ご家族の方が子どもたちを叱ったり注意したり、声をかけたりするのは何のためですか。

どの方もきっと、「子どものため」とおっしゃると思います。でも、もっと具体的にイメージしましょう。子どもに、どうなってほしいからですか？！

学校には、目標があります。一番大きな(上位の)目標は、「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」というものです。僕はこれを“mission”としました。ミッションとは、企業が果たすべき使命のことを指します。本校は、「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」を育てるために存在し、そうすることで、よりよい未来社会を創造するのだと解釈しています。本校は、そのための教育活動をする(している)ということになります。

僕は、冒頭で、皆さんに投げかけました。「どうなってほしいからですか」と。では、本校のミッション「未来に向かって伸びる鶴嶺の子」とは、どんな子でしょうか。実はこれ、残念ながらまだ教職員の間で共有できていません。教職員と一緒に議論をしながら、まずここを明確にしようと、活動を始めたところです。

目標を明確に具体的にすることが、たくさんの教職員が子どもに関わる組織として、絶対に必要だからです。方法は違ったとしても、めざす姿に向けて、全職員が教育活動をしていくからこそ、子どもたちが変わっていくのだと考えています。

これから僕は、このイメージを共有してもらおうとともに、そのイメージした子どもは、どのような資質・能力を身につけていなければならないのかを、職員と繰り返し話をしながら明らかにしたいと思っています。

話がそれました。今組織として、取り組み始めた内容をお伝えしました。「なるほど、そうなんだ。」と想像していただけでしょうか。では、ご家庭の中ではどうでしょう。「子どもにこうなってほしい。」とご家族で話すことは、ほとんどないのではないかと思います。

けれど、ご自分の子どもを前にして、何のために、今自分がこうしているのかが、はっきり意識できることは大切なことではないでしょうか。「子どものため」と言って、叱ったり、励ましたり、

受け止めたりしていることが、子どもの未来にどうつながっていくのか。それが明確になることで、もしかしたら、対応が変わることもあるかもしれません。

子育てをしていく上で大切にしたいことは、きっといくつもあります。細かく出していったら、それこそ山のようになると思います。

それでもこの紙面を使って、少しでも一緒に考えてみましょう。僕が日頃考えていることをお伝えしますね。まず、保護者の方に絶対に忘れてほしくないことは、「**子どもは、独り立ちしていく存在**」だということです。僕たちは、子どもをずっと守っていくことはできません。僕たちの保護なしに生きられなければならないし、様々なことに一人でも立ち向かっていかねばならない(助けてもらうにしても、自分でそれを伝えられなければなりません。)存在です。

次に、「**子どもの人生は、子どものもの**」だということです。子どもは、自分の人生を自己選択、自己決定していく必要があります。この部分をきちんと自分でしてこないと、うまくいけばよいですが、うまくいかないときにそれを受け止めることができません。自分で決めていないからです。親の価値観を押しつけレールを敷くことでは、人生をよりよく生きさせることはできないと考えています。

最後に、「**子どもに考えさせる**」ことです。分からないこと知らないことは、教えなければならないのは当たり前ですが、彼らに降りかかる様々なことをしっかり自分の頭で考えさせ、どうするかを自分で決めさせることもできるだけたくさんさせたいと思っています。

この3つを頭の隅に置いて、子どもにどうなってほしいのかを改めて、イメージしてみませんか。

とても大雑把なのですが、僕は子どもに「幸せな人生を送ってもらう」ために、子どもに向き合ってきました。僕が、それは幸せだと感じるのではなく、**子どもがそう感じる人生**です。そのために自分は、今何をすべきか、何ができるのかを考えていた(まだ継続中)ように思います。

未来を生きる子ども、多様な価値観の中生きる子ども、人との関わりの形が変化していく中を生きる子ども、変わっていく世界を生き抜く彼らに、どんな贈り物をしますか。それは、皆さんがイメージした「どうなってほしいのか」を通した一つ一つの関わりにかかっているのです。その贈り物は、子どもたちのお守りであり、未来予想図とも言えるのかもしれない。